
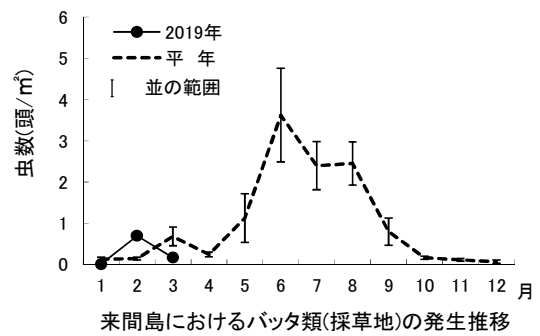
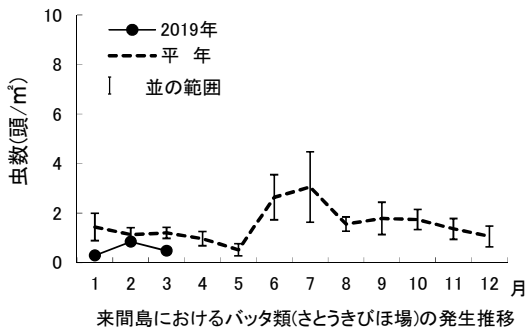


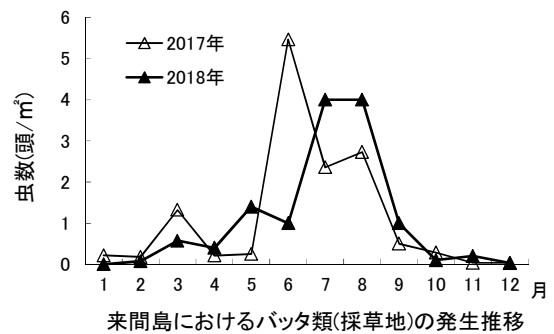
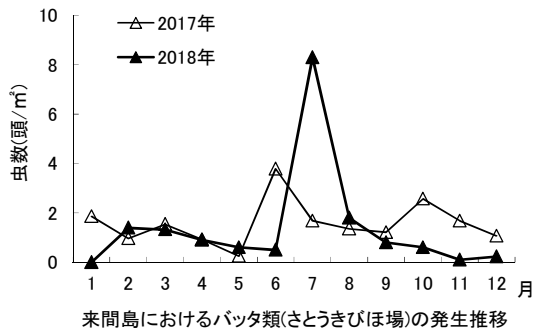
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
3月の発生量（現況）		やや少	
4月の増減傾向		→	
増減傾向の根拠		さとうきびほ場における成虫の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の推移




過去2年間の推移



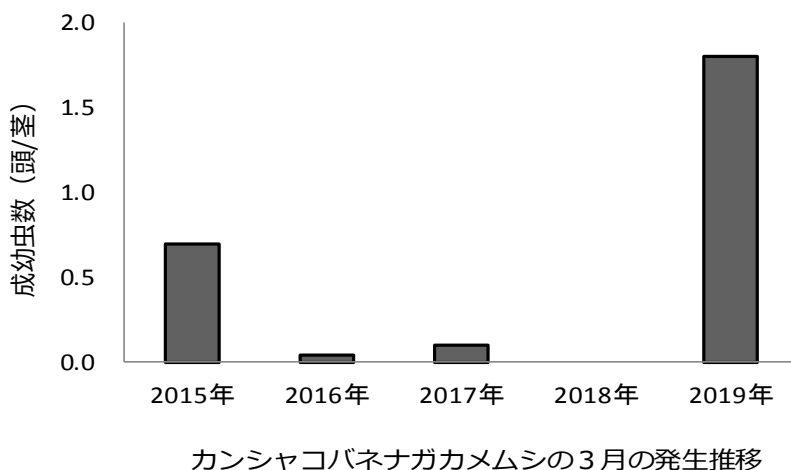
- ・ 来間島の一部地域では多発していた。（発生種：タイワンツチイナゴ）

防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、4～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① カンシャコバネナガカメムシ		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	冬季に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



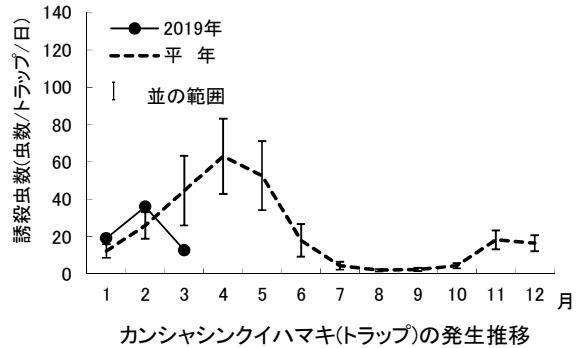
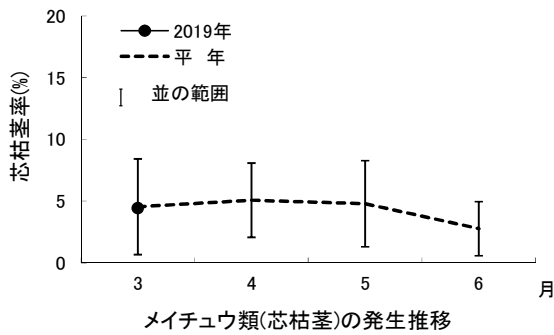
防除のポイント

- ・概ね4～6月に第一世代、7～8月に第二世代、9～10月に第三世代が発生するため、防除適期である4～5月上旬に茎当たり虫数が20頭を越えているほ場では、薬剤による防除を行う。
- ・前年の夏植や初回の株出しが被害を受けやすいため、葉鞘の隙間などをよく観察する。
- ・収穫後は直ちに畝間耕起し、発生源となる放置株を抜き取り処分する。

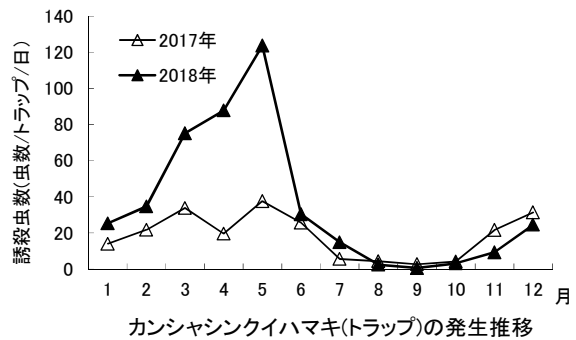
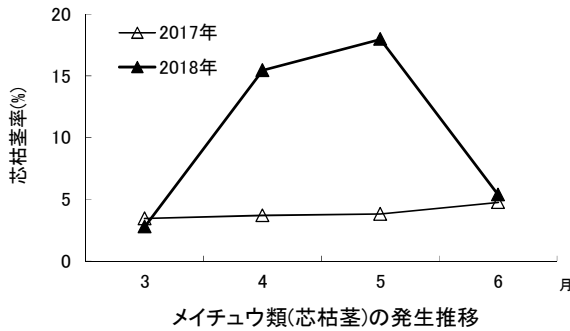
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ)		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・ 茎内で発見したメイチュウ類の100%がカンシャシンクイハマキであった。

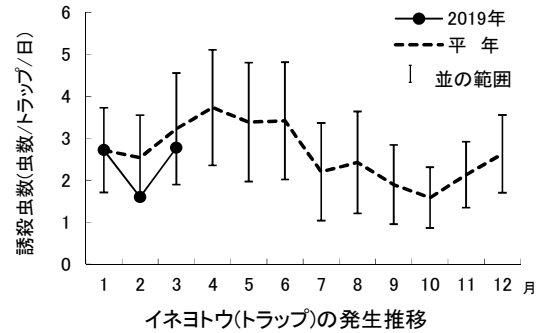
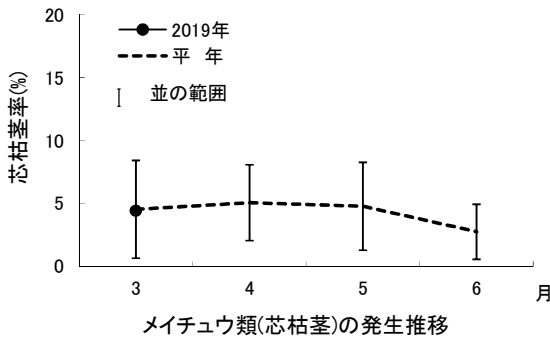
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

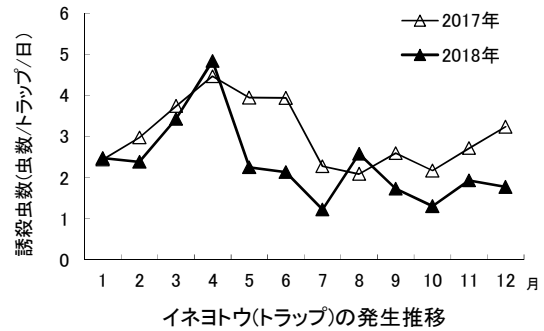
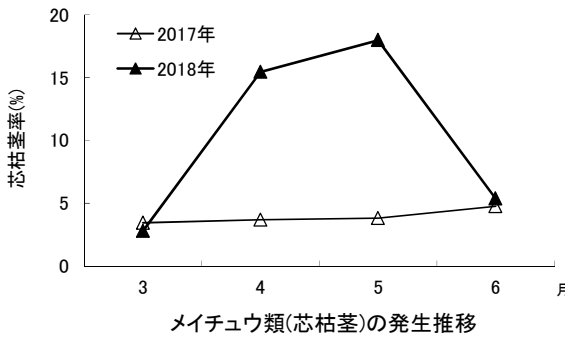
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 茎内の切開調査の結果、イネヨトウは確認されなかった。

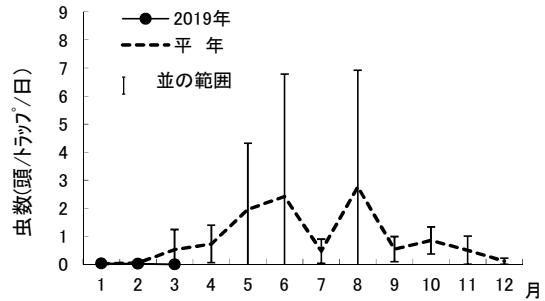
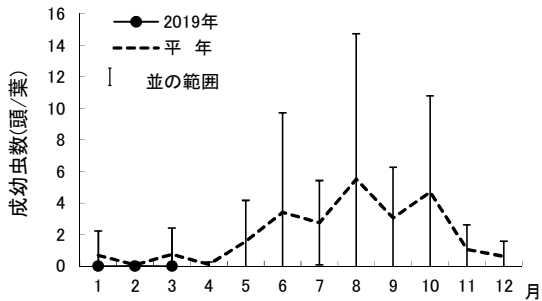
防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

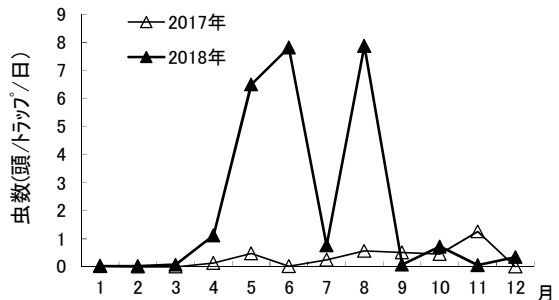
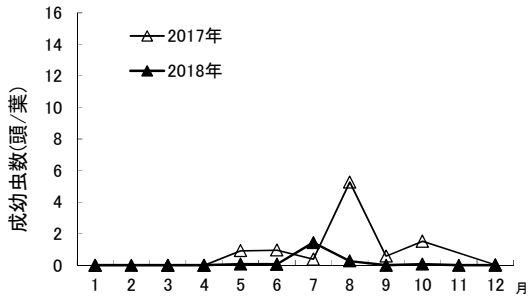
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

今年と平年の推移



過去2年間の推移




防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

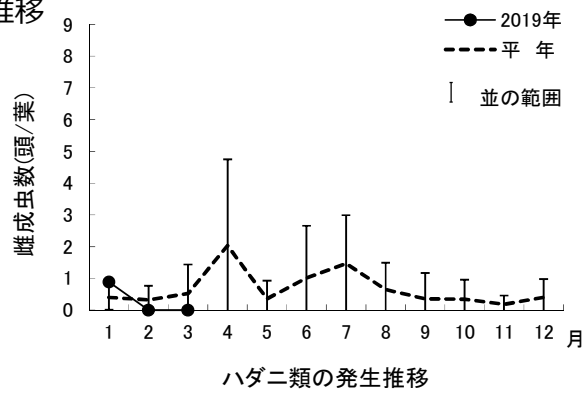


ナガエコミカンソウ

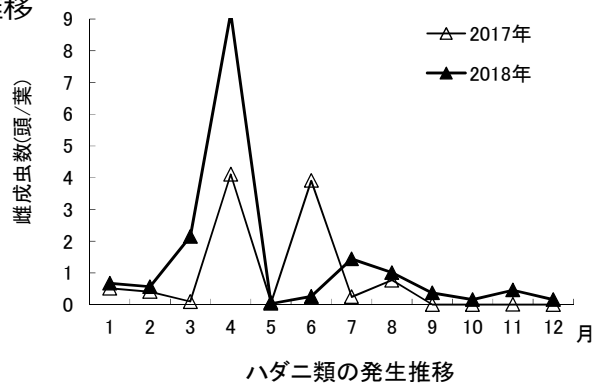
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② ハダニ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



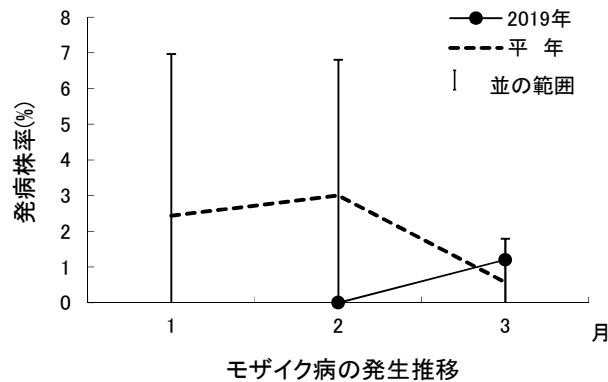
防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

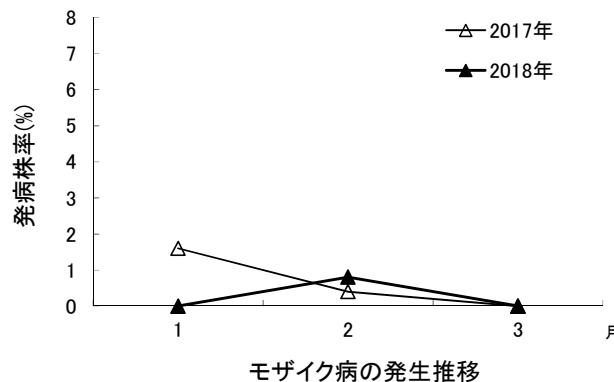
作物	かぼちゃ(2期)	地域	宮古群島
病害虫名	① モザイク病		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	媒介虫であるアブラムシ類が増加する見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移




過去2年間の発生推移



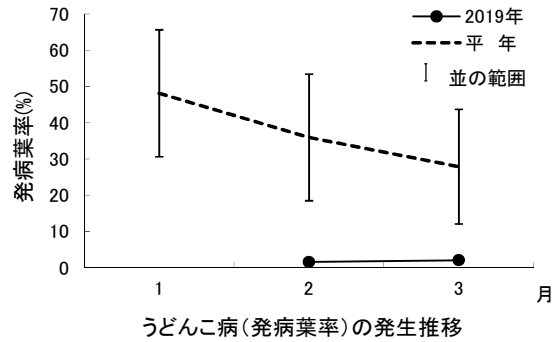
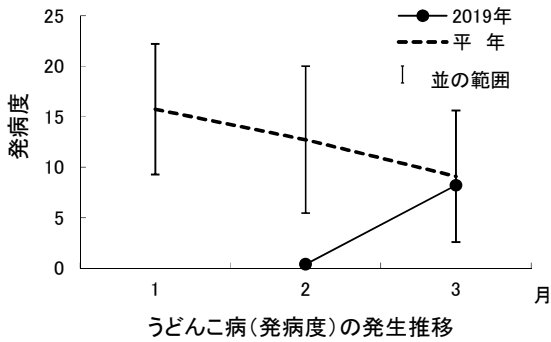
防除のポイント

- ・ほ場周囲に防風対策を兼ねたソルゴーや防虫ネット等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

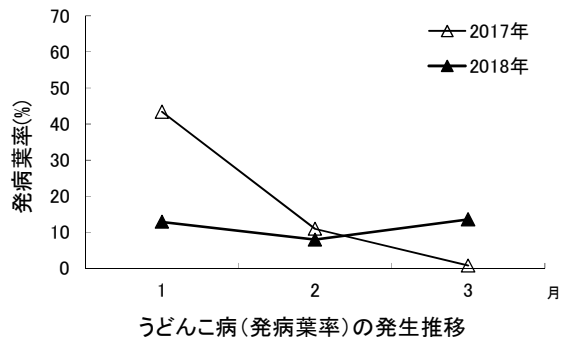
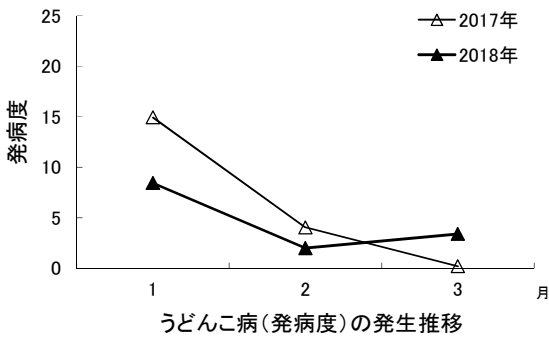
作物	かぼちゃ(2期)	地域	宮古群島
病害虫名	② うどんこ病		
3月の発生量(現況)		並	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		果実の成熟に伴い、老化葉が増加することから、3月より発生量は増加すると考えられる。	

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移




過去2年間の発生推移



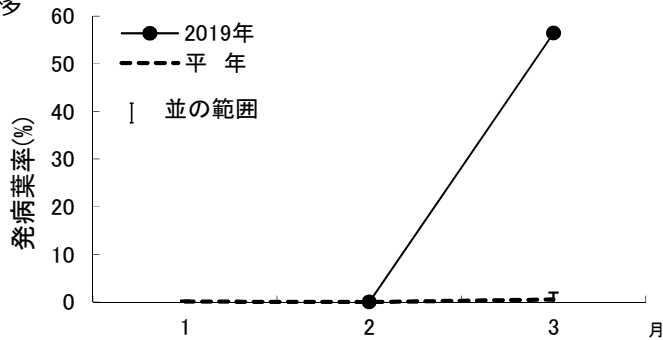
防除のポイント

- ・ 発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 生育初期は徒長しないよう管理し、予防散布を行う。
- ・ 着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の感染源になるため除去する。

作物	かぼちゃ(2期)	地域	宮古群島
病害虫名	③ 細菌病		
3月の発生量(現況)	多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

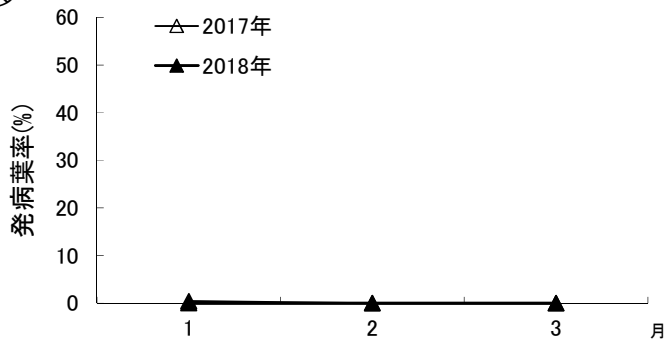
発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移



斑点・褐斑細菌病の発生推移


過去2年間の発生推移



斑点・褐斑細菌病の発生推移

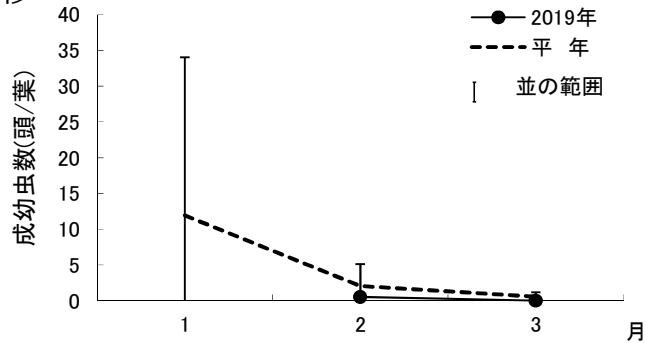
防除のポイント

- ・ほ場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。

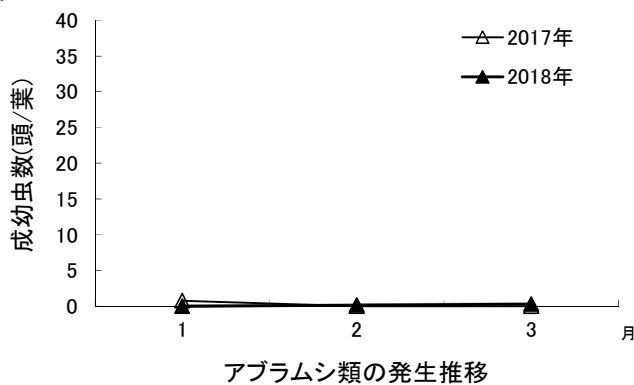
作物	かぼちゃ(2期)	地域	宮古群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移



過去2年間の発生推移




防除のポイント

- ・本種はモザイク病を媒介する。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねたソルゴーや防虫ネット等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

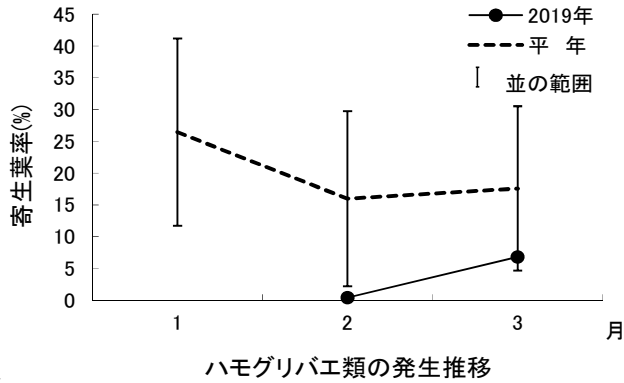


有翅虫

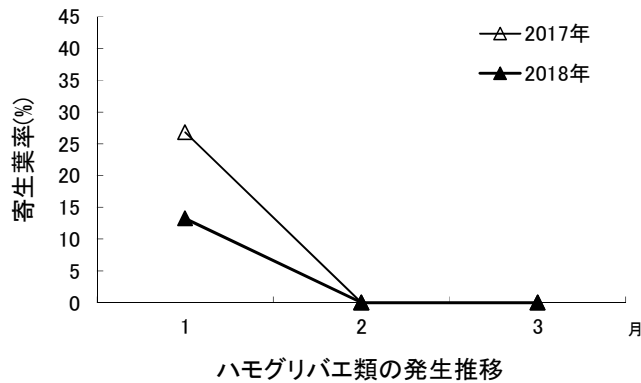
作物	かぼちゃ(2期)	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ ハモグリバエ類		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移



過去2年間の発生推移




防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌病が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

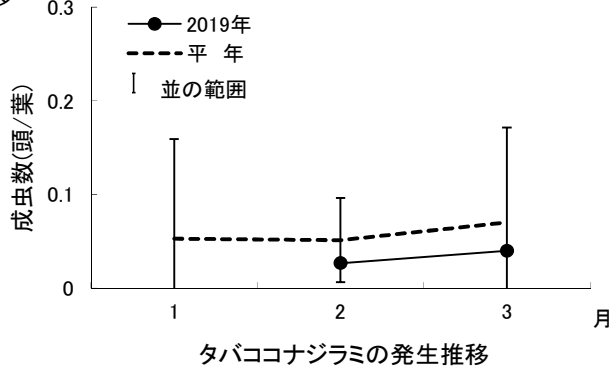
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



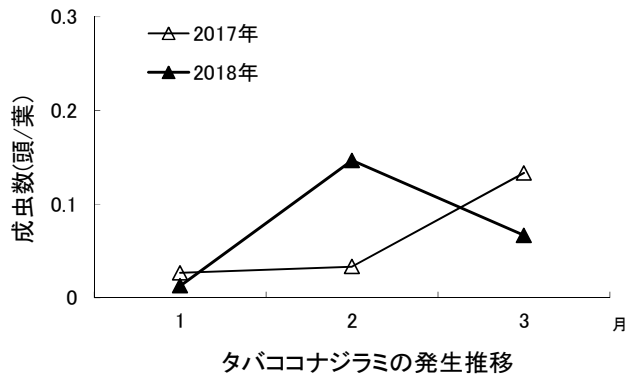
作物	かぼちゃ(2期)	地域	宮古群島
病害虫名	⑥ タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移




過去2年間の発生推移



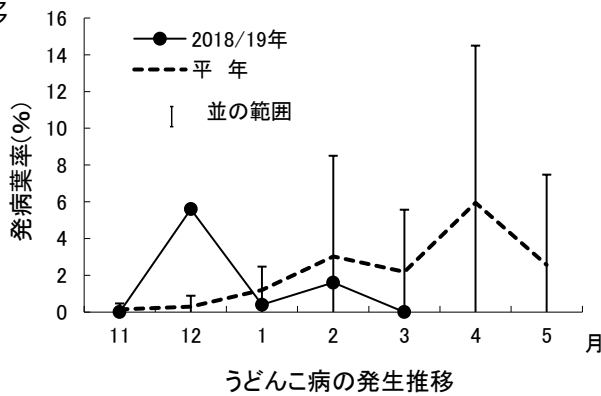
防除のポイント

- ・多発すると白化症を引き起こし生育不良となる場合があることから、初期生育の防除を徹底する。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

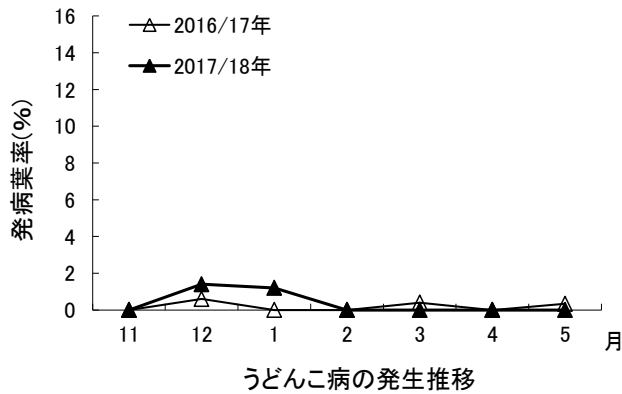
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



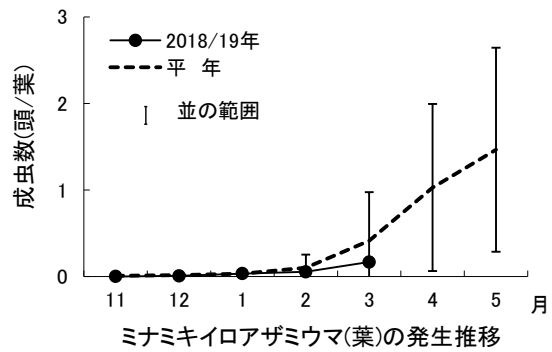
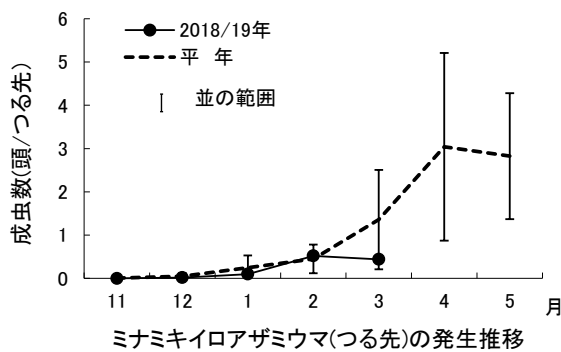
防除のポイント

- ・ 発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 除去した葉はほ場内に放置せず、ポリ袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・ 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

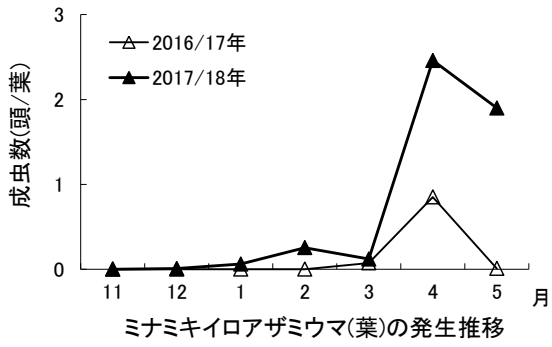
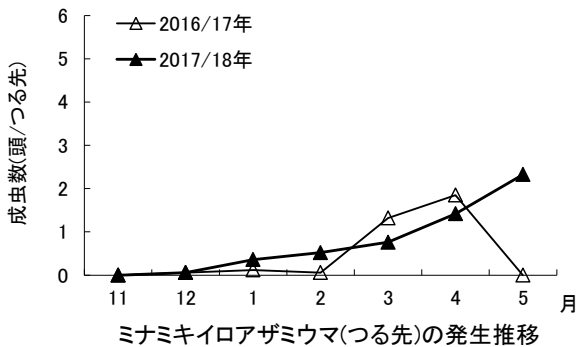
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
3月の発生量(現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	つる先の成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えらえる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移




過去2年間の発生推移



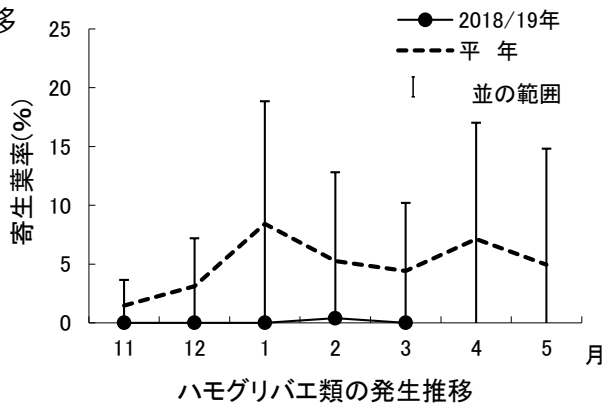
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

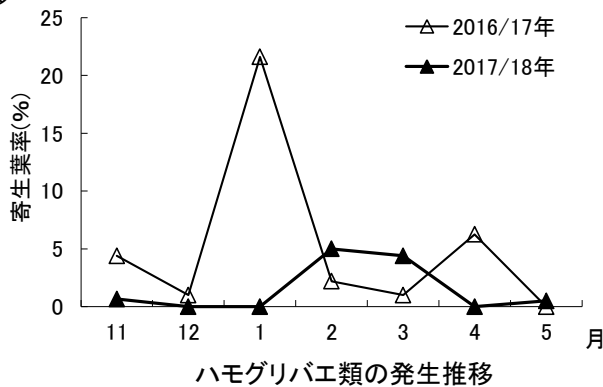
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	つる先の成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移



過去2年間の推移




防除のポイント

- ・施設内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・幼虫期間が比較的時間が短いので、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。
- ・老葉や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ポリ袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。

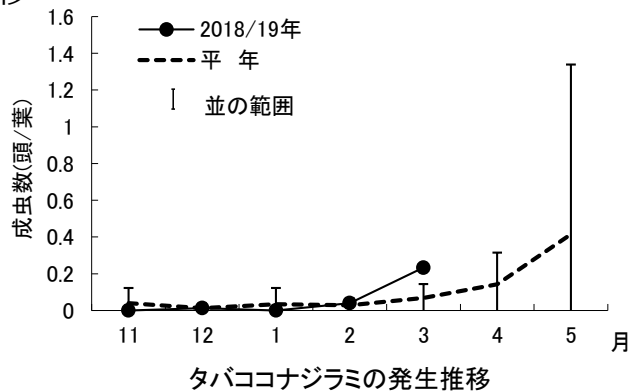
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



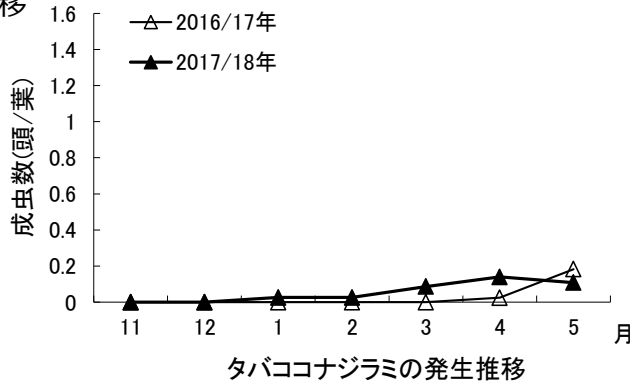
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
3月の発生量(現況)	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



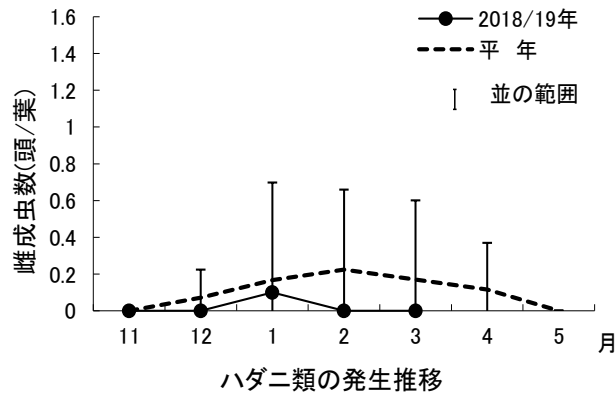
防除のポイント

- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

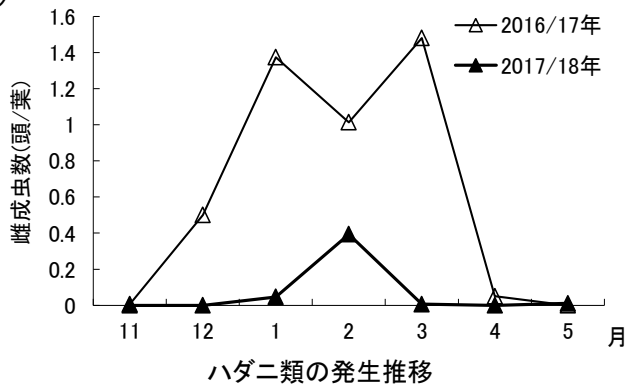
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
3月の発生量(現況)	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えらる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



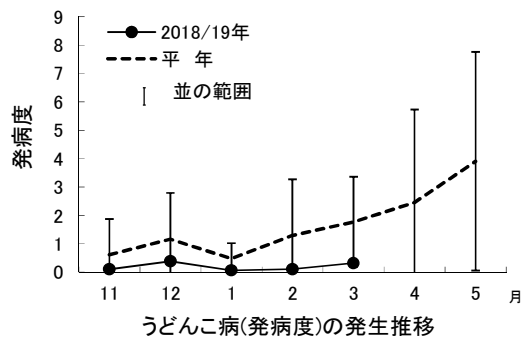
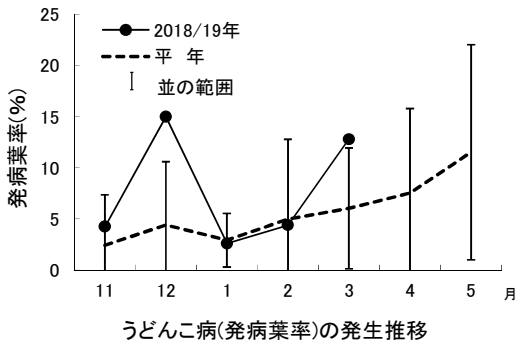
防除のポイント

- ・気門封鎖型薬剤の散布を主体とした防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

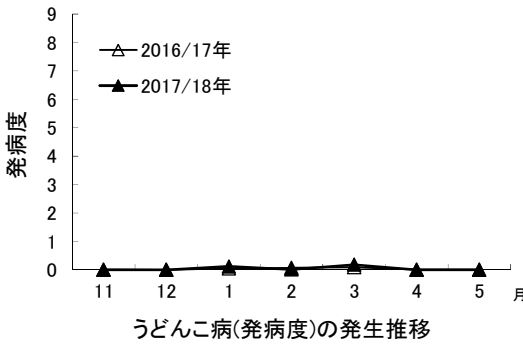
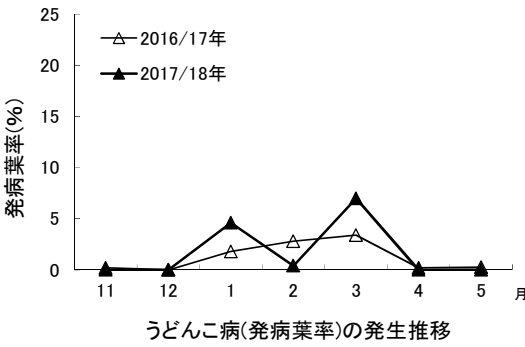
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・一部ほ場で多発していた。

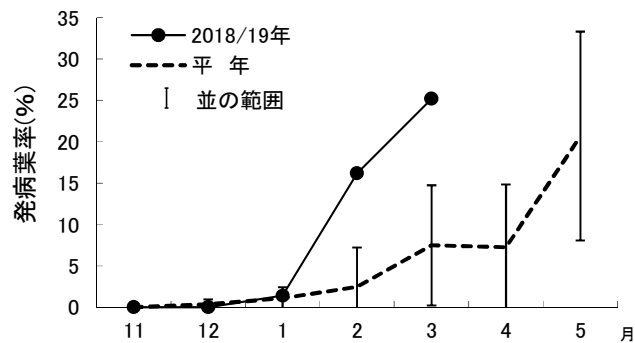
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病		
3月の発生量（現況）	やや多		
4月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。		

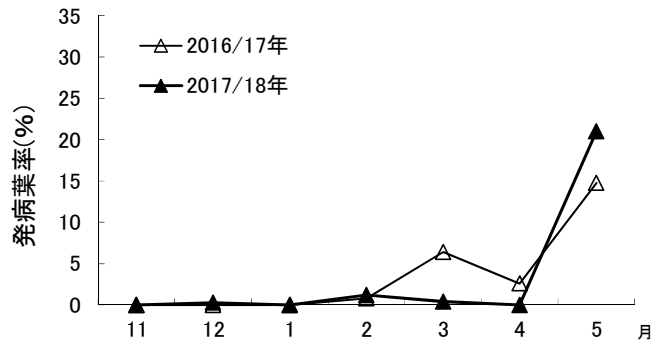
発生量の根拠（調査結果）

今期と平年の推移



斑点病の発生推移

過去2年間の推移




斑点病の発生推移

・一部ほ場で多発していた。

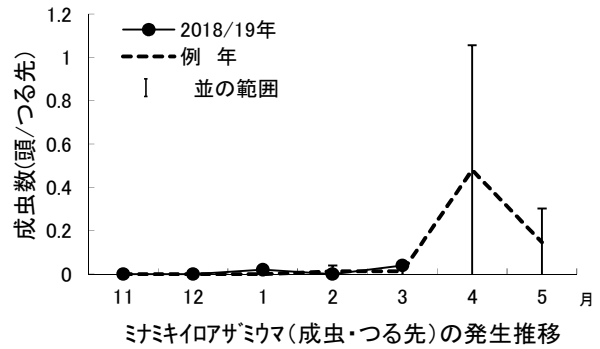
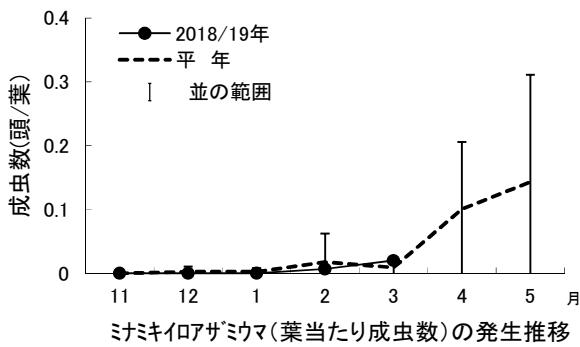
防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

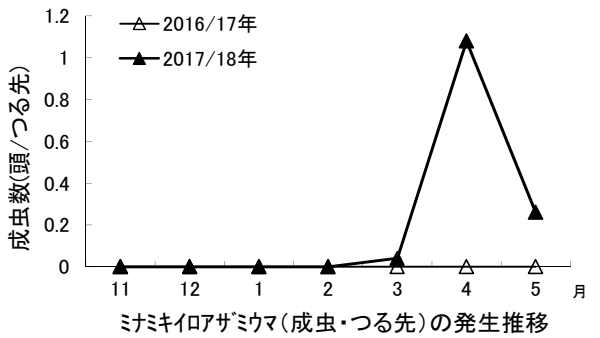
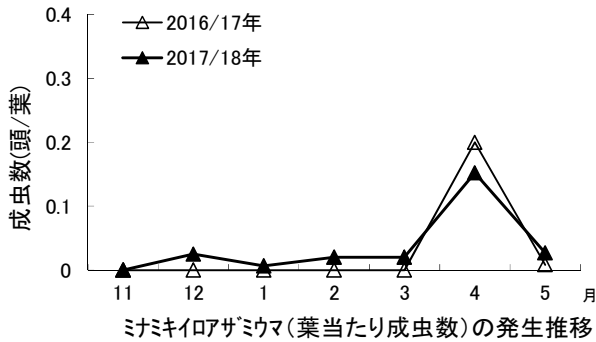
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	葉当たり成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今期と平年の推移




過去2年間の推移



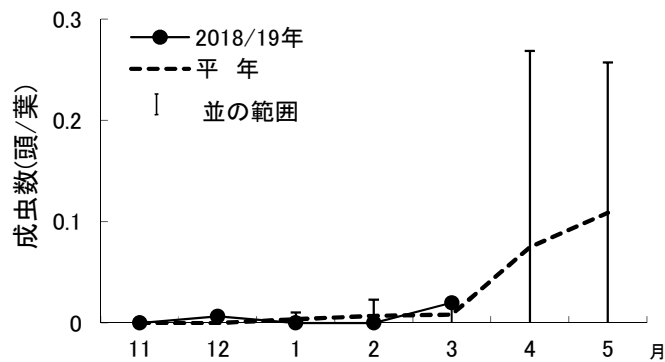
防除のポイント

- ・ 本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
3月の発生量（現況）	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

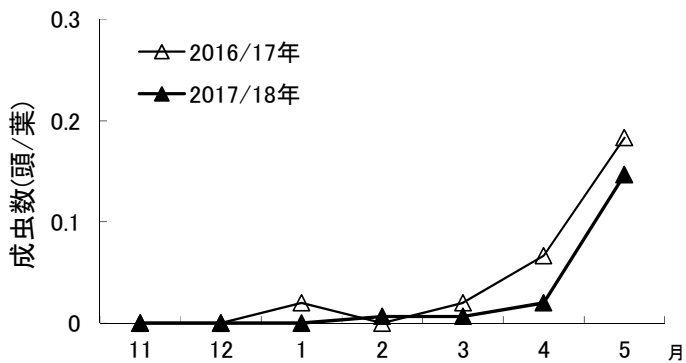
発生量の根拠（調査結果）

今期と平年の推移



タバココナジラミの発生推移


過去2年間の推移



タバココナジラミの発生推移

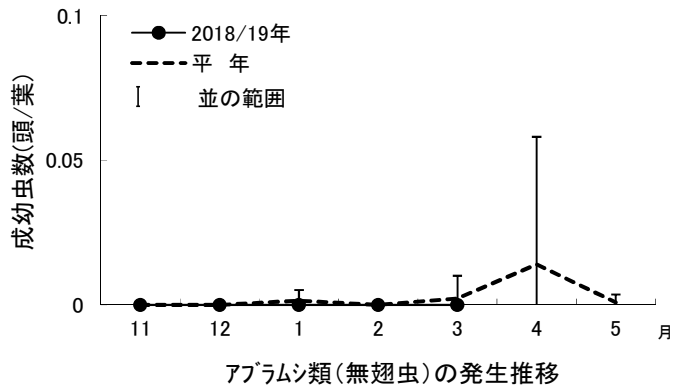
防除のポイント

- ・多発すると排泄物によるすす病が発生し、光合成を阻害する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

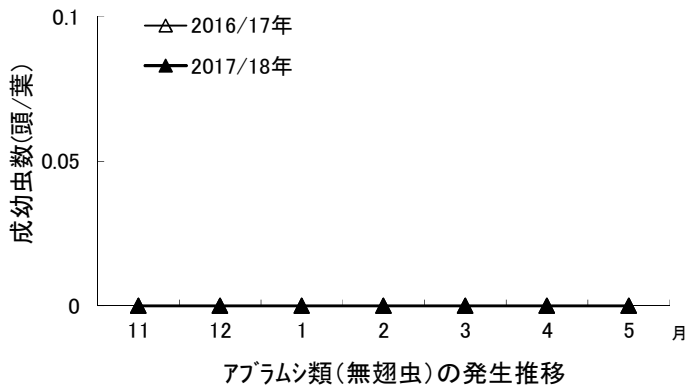
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類		
3月の発生量（現況）	(発生なし)並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今期と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に発生するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。



有翅虫



幼虫と白い脱皮殻